日時：2025 年 6 月 7 日（土）18:00～20:00
実施方法：オンライン会議

# 日本パーソナリティ心理学会第 162 回常任理事会議事録

出席：尾見康博理事長，松田英子副理事長，小塩真司，森 津太子，田中麻未，
外山美樹，武田美亜，川本哲也，中村　真
※審議事項Ⅰ（第 34 回大会について）のみ，佐藤広英大会準備委員長が参加した。

## 報告事項

I.　理事長挨拶

II.　各種委員会報告

1．機関誌編集委員会（小塩委員長）

(1)機関誌掲載情報

第 34 巻 1 号　2025 年 7 月刊行予定（2025 年 4 月末までに採択された論文）

原著 7 編，ショート 9 編

| | | |
|---|---|---|
| 原著 | 2者間でのゼロサム競争中における相対的な成績は動機づけにどのように影響するのか？――競争段階と制御焦点を踏まえた実験課題による検討―― | 清水 登大 |
| 原著 | Positive Solitudeがもたらす心理的効果－日本人におけるパーソナリティ特性と社会的ネットワークとの関連性－ | 屋田 拓臣 |
| ショート | 自尊感情の2形態と孤独感の関連―随伴性自尊感情と本来感に注目して― | 富井 繭 |
| ショート | 心理的リアクタンス特性の2側面―ユニークネス，集団主義との関連に着目して― | 木川 智美 |
| ショート | 文化的世界観尺度日本語版作成の試み | 武田 美亜 |
| 原著 | 完全主義社会的断絶モデルにおける完全主義的自己呈示の役割 | 辻本 悠 |
| ショート | 刑事司法に対する態度と素朴な自由意志信念の関係 | 向井 智哉 |
| ショート | 主観年齢の世代変化-20代から高齢者を対象に- | 澤田 奈々実 |
| ショート | 抑うつ傾向者の不快情報の記憶のモニタリングに対する情動顕著性効果の検討 | 高橋 佳史 |
| ショート | ZTPI高頻度短縮版の因子的妥当性と信頼性に関する検討 | 張 澤 |
| 原著 | 感謝と自尊感情の関連――年齢と心理的負債感による検討―― | 今泉 里香 |
| 原著 | 感謝と自尊感情の関連――年齢と心理的負債感による検討―― | 今泉 里香 |
| 原著 | レジリエンスの「場」による変動性―日本人勤労者の仕事と趣味，家庭の場に注目して― | 上野 雄己 |
| ショート | 自己愛傾向が恥への対処スタイルとストレス反応に及ぼす影響――セルフ・コンパッションを媒介として | 小林 茉那 |
| ショート | パーソナリティ特性語の社会的望ましさの認知データベースの開発 | 丹 亮人 |
| 原著 | 援助要請スタイル、シャイネス、心理的適応の関連と性差 | 橋本 剛 |

第 34 巻 2 号　2025 年 11 月刊行予定（2025 年 4 月末までに採択された論文）

ショート 4 編

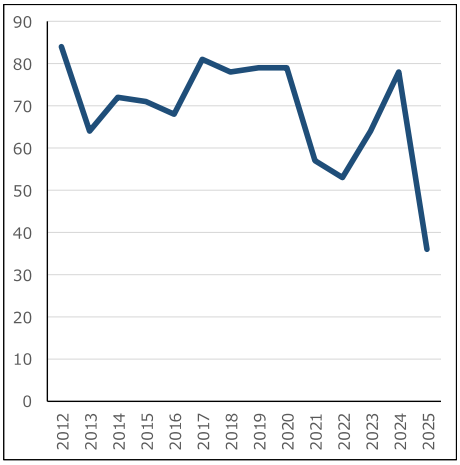
| | | |
|---|---|---|
| ショート | トラウマ体験を有する成人女性におけるPTSD症状とQOLの関連性の検討－自己客体化の自律性の欠如に着目して－ | 松岡 優菜 |
| ショート | 高校生における社会的達成目標と学校適応との関連――短期縦断的検討―― | 海沼 亮 |
| ショート | メンタライジングと曖昧さへの態度が社会適応に及ぼす影響 | 榎木 宏之 |
| ショート | マインドフルネス，胃腸症状に対する非機能的認知，嘔吐に関する回避行動の関連 | 米田 健一郎 |

(2)編集状況

2025 年 5 月末現在の投稿状況は，以下の図表の通りである旨の報告があった。

※2025 年については，5 月末時点で 36 本の投稿があった。

| 年月 | 採択 | 審査中 | 修正中 | 不採択 | 取り下げ | 投稿時不採択 | 投稿数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2024 | | | | | | | |
| 1 | 2 | | | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 2 | 5 | | | 2 | 1 | 0 | 3 |
| 3 | 1 | | | 3 | 0 | 0 | 9 |
| 4 | 2 | | | 4 | 0 | 0 | 6 |
| 5 | 3 | | | 3 | 0 | 0 | 7 |
| 6 | 1 | | | 2 | 0 | 0 | 12 |
| 7 | 3 | | | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 8 | 4 | | | 3 | 0 | 0 | 4 |
| 9 | 2 | | | 1 | 0 | 0 | 4 |
| 10 | 8 | | | 1 | 1 | 0 | 7 |
| 11 | 2 | | | 1 | 0 | 0 | 6 |
| 12 | 1 | | | 2 | 0 | 0 | 11 |
| 計 | 34 | 0 | 0 | 25 | 2 | 0 | 78 |
| 年月 | 採択 | 審査中 | 修正中 | 不採択 | 取り下げ | 投稿時不採択 | 投稿数 |
| 2025 | | | | | | | |
| 1 | 3 | | | 2 | 1 | 0 | 5 |
| 2 | 7 | | | 2 | 0 | 0 | 7 |
| 3 | 1 | | | 5 | 2 | 0 | 9 |
| 4 | 4 | | | 3 | 0 | 0 | 7 |
| 5 | 3 | | | 4 | | | 8 |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | |
| 計 | 18 | 0 | 0 | 16 | 3 | 0 | 36 |




(3) J-STAGE 投稿審査システム（Editorial Manager）利用の件

パーソナリティ研究が現在使用している J-STAGE 投稿審査システム（Editorial Manager）について，科学技術振興機構（JST）より今後の運用および利用要件に関する改定案が示されたことをふまえて，情報照会と意見交換を行った。

現在の J-STAGE 投稿審査システムの運用は，令和 9 年 9 月末をもって終了となり，令和 9 年 10 月より新たな運用となる予定であること，新運用では新たに定める利用要件の充足状況を毎年審査し，採択誌に対して J-STAGE 投稿審査システムを提供するが，利用条件を充足しない雑誌は，ベーシック投稿審査システム（仮称）へ移行になること，パーソナリティ研究は新たな利用要件を充足することが難しい状況であることを確認した。

以上をふまえて，機関誌編集委員会において Editorial Manager の継続利用について，見積を併せて検討し，委員会としての見解を次回以降に提案することを申し合わせた。

２．経常的研究交流委員会（森委員長）

(1)第 34 回大会の企画について

実施予定について，以下の通り報告があった。

① 招待講演

“Putting Regional Personality on the Map”

＜講演者＞Friedrich M. Götz (Department of Psychology, University of British Columbia)

＜司会者＞吉野　伸哉（公益財団法人医療科学研究所）

② 企画シンポジウム

『人が他人を助けるとき　―援助行動研究の新たな視座―』

＜話題提供者＞内山 有美（鳴門教育大学），登張 真稲（文教大学），下司 忠大（立正大学）

＜指定討論者＞小田 亮（名古屋工業大学）

＜司会者＞臼倉 瞳（東北学院大学）

③　MPP 企画

『工夫やコツを教えてください！―大学教員・研究者のゆとりをつくるには？―』

⑵大会外企画について

2026 年 3 月頃にオンライン開催を予定しており，現在検討中である旨の報告があった。

⑶ Summer School of Personality Science 2026（SSPS2026）への派遣

2025 年 12 月頃に募集することを目途に検討を始めたいとの報告があった。

⑷その他

『パーソナリティ心理学事典』（丸善出版）に掲載する「心理尺度リスト」の作成協力について，学会公式サイト内の「心理尺度の広場」にある情報と整理統合し、データベース化する方向で検討したいとの報告があった。

３．広報委員会（川本委員長）

⑴定例の活動（2025/2/27 から 2025/6/3 まで）

ウェブサイトの更新（4 回），メールニュースの配信（22 回），ML 上での業務調整などの活動内容が報告された。併せて，5 月中にメールニュースサービスにエラーが発生していたこと（委員へのメールニュース発信依頼が届かない状態），その後，復旧しているが、原因特定にいたっておらず，現在，究明中であるとの報告があった。

⑵今後のメーリングリストおよびウェブサイトの運用について

学会ウェブサイトならびに常任理事会や各種委員会で使用する ML の保守業務を委託しているチェロトーン社より，今後は，ML ではなく，別の方法をとってはどうかとの打診が寄せられた旨の報告があった。審議の結果，当面は現行 ML の使用を継続することを申し合わせた。

また，同社より，現行のウェブサイトになってから長期間が経過しており，セキュリティ上の問題が発生する可能性もあることから，ウェブサイトのリニューアルを勧められた旨の報告があった。審議の結果，広報委員会において機能の追加などを含む事前検討を開始し，それに基づいて見積を依頼する方向で進めることを申し合わせた。

⑶今後の活動予定（継続を含む）

ウェブサイトの更新，メールニュースの配信（随時），委員分担コンテンツの更新を行っていく旨の報告があった。

⑷2025 年度ヤングサイコロジストプログラム（YPP）について

以下の記載事項および別紙に基づき，YPP 開催へ向けた準備が順調に進んでいる旨の報告があった。

開催日：2025 年 10 月 3 日（金）

会場：信州大学松本キャンパス

参加費：無料
実施企画：若手研究者の多様な実情共有と関心キーワード紹介
YPP 担当委員：古賀 佳樹（久里浜医療センター），木田 千裕（大阪公立大学）
加藤 伸弥（神戸学院大学）
企画担当：戸田 晃大（企画担当代表・九州大学），久保田 晶乃（法政大学）
有海 春輝（京都大学），松崎 美奈子（大阪大学）

４．褒賞関連事項（外山褒賞担当常任理事）

⑴2025 年度学会賞について

複数の理事から推薦があった論文を第 1 次選考の対象にして審査を進めている旨の経過報告があった。

⑵学会賞選考細則の一部修正について

同細則を一部修正し，2025 年度学会賞の選考から適用することを申し合わせた。

⑶第 34 回大会の優秀大会発表賞について

第 161 回常任理事会に引き続き，優秀大会発表賞について検討を行った結果，第 34 回大会より同賞を「優秀大会発表賞（一般）」と「優秀大会発表賞（大学院生）」の 2 部門とすることを決定し，このことを大会ウェブサイトおよび学会 ML にて周知することを申し合わせた。また，抄録原稿を対象とする第 1 次選考（理事による選考），大会当日の発表を対象とする第 2 次選考（大会参加者の評価・投票による選考）の 2 段階の選考を通じて優秀大会発表賞の受賞者を決定することを確認し合った。以上をふまえた優秀大会発表賞規程（案）が示され，審議の結果，同案が承認された。

## 審議事項

I.　第 34 回大会について（佐藤広英大会準備委員長）

佐藤委員長より，招待講演および各種企画等の準備進捗状況について，順調に推移している旨の報告があった。併せて，優秀大会発表賞の 1 次審査，大会発表抄録の様式及び倫理的問題の有無の検討，大会プログラム暫定版の公開など，今後の予定について確認と報告があった。

II.　「日本性格心理学会発表論文集」の二次使用の問い合わせについて（田中事務局長，追認事項）

田中事務局長より，常任理事会 ML 審議にて許可を決定した本件について再度説明があり，これを追認した。

III.　日本学術会議法案への反対声明について（田中事務局長，追認事項）

田中事務局長より，常任理事会 ML 審議にて決定した「本学会として，日心連から法案反対の声明を発出することを支持する」件について再度説明があり、これを追認した（常任理

事会 ML 審議の決定をうけて、2025 年 5 月 23 日付けで学会 HP において同内容の声明文を掲載済みである)。

IV.　財務関連事項（武田財務担当常任理事）

2023 年度決算書の一部に表記ミスがあることが判明したため，監事に確認のうえ訂正版に差し替えること，第 34 回大会時に開催する総会においてその旨を報告・説明すること，以上の手続きを終えた後，学会ウェブサイトに掲載し直すことを申し合わせた。

2024 年度決算（別資料）について堅調な財務状況にあることを確認し合い，今後、監事による監査を受ける運びになることを申し合わせた。

会費未納者への再請求方法について審議を行い，従前どおりの方法で督促を行うことを申し合わせた。

V.　会員の入退会に関する件（田中事務局長）

別紙資料に基づき，入会希望者 38 名（うち 1 名は賛助会員。全て ML 審議にて承認済み）が示され，審議の結果，入会が追認された。また，退会希望者 48 名が示され，審議の結果，退会が承認された。併せて，宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて，2025 年 5 月 29 日現在，会員総数は 907 名である。内訳は，一般会員 823 名，院生会員 63 名，学生会員 5 名，名誉会員 11 名，賛助会員 5 名である。

VI.　当面の常任理事会の日程について

次回の常任理事会：7/21（月）18:00～20:00 オンライン開催

次々回の常任理事会：9/2（火）18:00～20:00 オンライン開催

※第 34 回大会の前日に行う予定であった常任理事会については、諸般の事情により開催を見合わせることを申し合わせた。

以上